

大相撲秋場所で2019年初場所以来2度目の優勝を果たした東前頭3枚目の玉鷲37歳。片男波（37歳）が千秋楽から一夜明けた26日、東京都墨田区の片男波部屋からオンラインで記者会見し、「今考えるのとあつという間の15日間でした」と胸の内を語った。

九州場所は2019年名古屋場所（西関脇）に敗れ、首位をキープ。このとき「悪いものは全部出た。相撲の神様は見えてくれるな」と心のなかで思ったという。風は自分に吹いてる。前を向き、自分の相撲に徹し、千秋楽まで駆け抜けた。

千秋楽で優勝の可能性を残していた高安との直接対決を制した。37歳10カ月での優勝は年6場所制となった1958年以降では、2012年5月場所の旭天鵬の37歳8カ月を更新して最年長。また金字塔を打ち立てたが、優勝を意識したのは意外なときだった。

11日目に単独トップに立ったが、翌12日目に若

来19場所ぶりの三役返り咲きが確実。「番付はどこでも自分は変わらない。しっかりやってお客さんを喜ばせたい」と自然体を強調し、「(体は)全然まだまだ元気なんだ」と笑った。基礎運動を徹底し衰えの知らない鉄人を、相撲の神様は来場所以降もきっと見ていてくれるだろう。

(島田明)

九州場所は2019年名古屋場所（西関脇）以来19場所ぶりの三役返り咲きが確実。「番付はどこでも自分は変わらない。しっかりやってお客さんを喜ばせたい」と自然体を強調し、「（体は）全然まだまだ元気なんで」と笑った。基礎運動を徹底し衰えの知らない鉄人を、相撲の神様は来場所以降もきっと見ていくのだろう。

（島田明）

大相撲秋場所での10勝5敗の好成績で初の殊勲賞を獲得し、九州場所での新三役昇進を確実にした翔猿(30)は追手風、写真㊤が2月、東京都練馬区立練馬文化センターでの後援会「明猿会」の発足式に出席し、化粧まわしを贈呈された。

翔猿の誕生日である4月24日に発足し、こ

の日に発足式が開かれることも決まっていた。それまでに三役昇進することを目標に夏場所、名古屋場所と奮起した翔猿。「みなさまに応援していただいて、絶対に三役になるという目標を立てていたので、このような姿を見せられるように頑張りました。このときには三役を決められるようにやってきました」とあいさつして拍手を浴びた。

次の目標を聞かれた翔猿は、「次は大関を目指して」と決意を語っていた。(岸本隆)



照ノ富士の再起を
横審委員長「期待」

78	勝高田	海山	鳴戸	戸上	0	78	新隆	山	(常盤山)	4
79	高田	国	尾上	上川	1	79	東誠	峰	(八井)	4
80	稲垣	葉	境阿	松山	1	80	榎	井	(鳴砂)	5
81	船越	虎	阿武	山	4	81	朝乃	佐	(高砂)	5
82	祐	馬	式	秀山	4	82	若	洞	(高砂)	4
83	佐	鹿	式	山	4	83	北	八	(井)	1
84	大	雅	陸奥	奥	5	84	勝	雲	(高田川)	6
85	鷗武	海	陸奥	島	5	85	前	土	(出羽)	5
86	隆	和	陸奥	島	5	86	羽	空	(出羽)	5
87	隆	和	陸奥	島	5	87	千	野	(不瀬)	5
88	隆	和	陸奥	島	5	88	高	太	(春日)	5
89	隆	和	陸奥	島	5	89	千	太	(春日)	5
90	隆	和	陸奥	島	5	90	千	太	(春日)	5

優勝 高橋(二所ノ関=西44枚目)

[illegible][illegible]

礼身に扱えた一言に、一にて、マウンツで彼のよしの着杉も予定している。一トは必貴

大期が京隆有

も若ノ琴 魅力十分

べきは安定感です。代名詞「うかなわぬ」というイメ



⑤寄り切りで逸ノ城(左)を下す若隆景
⑥押し出しで若隆景(右)を破る琴ノ若

横審九州場所 照休場も静観
日本相撲協会の諮問機関、横綱審議委員会(横審)は26日、東京・両国国技館で定例会合を開いた。7月の名古屋場所折後ま折型コ

ナの感染拡大で中止となっており、2場所ぶりの開催。両膝の故障のような気持ちで期待している」と再起を願った。また、2人が4勝11敗だった大関陣について、現行のカド番制度や昇進を疑問視する意見もあった。

ふがない大関 正代
す。その一方で、あっさり負けることが1場所に何番もあるのが気になる。上位になればなるほど相手は研究してきます。負ける時も粘ります。強さが出れば、若隆景に次ぐ存在になることでしょう。
3大関にも少し触れたと思います。2桁勝った貴景勝とは対照的に正代、御嶽海は私から言わせれば無気力というか「氣」が出ていません。正代は場所後の昇進披露パーティーが「お祝い」というより「激励会」になりそうですが、後援者らの顔を見て「こんなに応援していただけなんだ」と意気を感じて奮起してほしいと思います。
(元横綱・稀勢の里)

若隆景は「綱目指せる」
○横審の会合では関脇・若隆景に期待の声が上がった。秋場所11勝で大関昇進への足掛かりを築き、高村委員長は「足腰は初代若乃花(元横綱)をほうふつさせる」と

とを指摘し「序盤戦にも強い若隆景になれば、将来は横綱を目指せる」と語った。37歳で2度目の優勝を果たした玉鷲、千秋楽まで賜杯を争った32歳の高安も話題になった。高村委員長は「末永く頑張ることを期待しても、おかしく



後援会発足式で化粧まわしを贈呈された翔猿(左)

後援会発足式出席 翔猿お見事!! 有言実行三役!!
秋場所10勝を挙げ、殊勲賞を受賞した幕内・翔猿が26日、東京都練馬区で行われた自身の後援会「明猿会」の発足式に出席した。
同後援会は「一年以内に三役を目指す」という目標を応援するために4月に設立。式典がこの日に開かれることは事前に決まっていた。そこに合わせたかのように、九州場所での三役昇進を確実とさせる活躍ぶり。「このタイミングで決めた」と思っていたと見事な有言実行を喜んだ。

笑顔で優勝一夜明け会見をする玉鷲(日本相撲協会提供)
家族で過ごす休日を楽しみにしていた。
(前川 晋作)